

2026年の春分は3月20日です。

春分の日は、太陽が真東からのぼり、真西に沈む日。昼夜の長さが同じになります。『春分の日』を中日として、前後3日間がお彼岸にあたります。初日を「彼岸の入り」、最終日を「彼岸の明け」と呼びます。



春分は、西方の仏の住む極楽浄土と現世が交わる日とされて、これがお彼岸の起源になったという説があります。

太陽が真西に沈む、春分の日は、先祖が住む極楽と現世が交流しやすいときとされ、仏教国の中でも日本固有の信仰と伝えられています。

「お彼岸」はご先祖さまを供養したり、お墓参りをする日としても知られています。仏教においてあの世とこの世がもっとも近づく時期とされています。

ご先祖様と過ごし感謝する期間の行事という点では共通していますが、お盆は夏、お彼岸は春秋という時期の違いに加え、お盆は帰ってくるご先祖様の霊を迎え入れる、お彼岸はこちらから近くまで行ってお招きするという違いもあります。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があるように、寒さは和らぎ過ごしやすい季節になります。桜の開花情報が聞かれるのもこの頃からです。



春分の日とは、昭和23年の祝日法の制定当初から設けられている国民の祝日です。

「自然をたたえ、生物をいつくしむ」ことを目的とした日です。本格的な春の訪れを知らせる「春分の日」。出会いと別れのシーズンではありますが、あらたな出会いと大いなる飛躍への期待を込めて過ごしたいものですね。

『菜の花や 月は東に 日は西に』 与謝蕪村

夕暮れ時に、西の空に〈沈む夕日〉東の空に〈昇る月〉が見えていたことから、〈満月〉あるいは〈満月〉前後の月と思われま。夕日に手を合わせて後ろを振り返ると、そこには大きな満月が！広い野原か峠道での天体ショーに感動した句なのでしょう。



与謝蕪村は、江戸時代中期に活躍した俳人で、画家でもありました。松尾芭蕉や、小林一茶と並んで江戸時代の俳句の巨匠とされます。